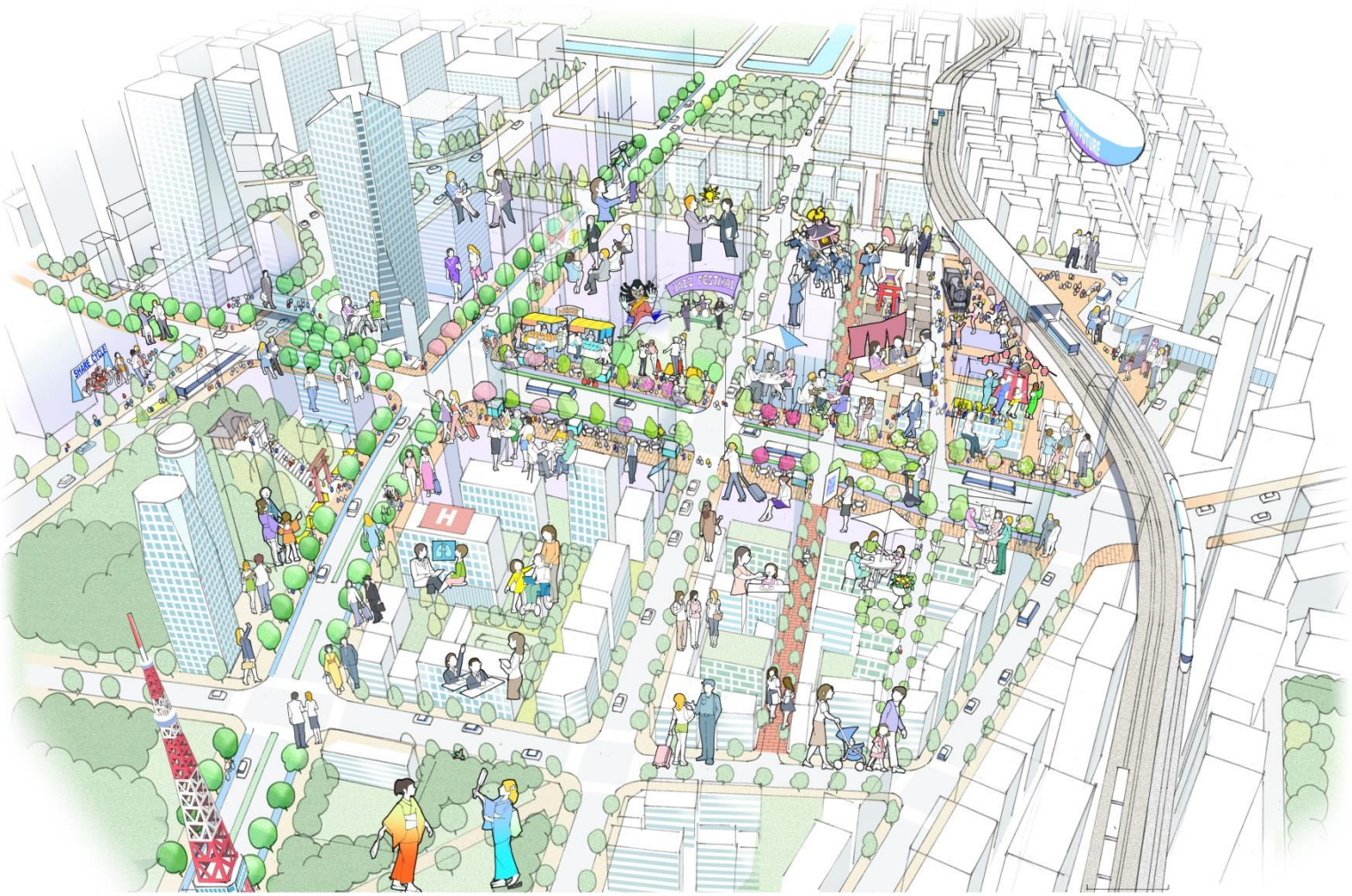
第3章　まちの将来像

1　まちの将来像

改定の視点やまちの魅力（特性）と課題を踏まえて、本地区のまちの将来像を設定し、その実現に向けてまちづくりを進めていきます。

まちの将来像

地に染み込む伝統と　未来を創る躍動感が融合し
新しい歴史を刻む　にぎわいと活力に満ちたまち



新橋・虎ノ門地区は、100 年以上続く老舗や地域のお祭り、サラリーマンの聖地と呼ばれるにぎわいのある通りなど、江戸から続く伝統や文化を継承しつつ、近年の新たなまちづくりの進展に伴う、国際水準のビジネス・生活環境の形成など、時代の流れに応じて積極的に新しいものを取り入れてきました。

多様な文化、生活、街並み、にぎわいなどが混在する本地区ならではの多様性や、新たな価値観を受け入れながら常に成長・進化する包容力を土壌として、古さと新しさが融合することで新たな価値を生み出し、にぎわいと活力に満ちたまちを創造していきます。

2 まちづくりのポイント

まちの将来像を受けて、地域の特性やまちの資源、既存の街並みをいかし、本地区として大切に考えるまちづくりのポイントは、以下の2点です。

まちづくりのポイント① 多様なスケールの空間を大切にした街並みの形成

- 本地区の街並みは、大きな駅前広場などの象徴的な空間、中高層ビルが立ち並ぶ空間や、小規模な飲食店が密集する空間まで、多様なスケール感の空間が共存することで形成されています。
- この多様なスケール感のある空間の共存が生み出す魅力をいかしながら、新橋･虎ノ門地区らしい街並みを継承していくことが重要です。

まちのシンボルとなるランドマーク

特徴的なデザイン、高い象徴性など、シンボル性を有しています

虎ノ門ヒルズ

新橋駅西口広場（SL広場）のSL

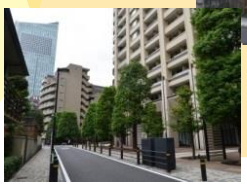
緑豊かで歴史ある愛宕山

調和に配慮した連続性ある街並み

良好な環境を育む街並みの要素となります

幹線道路沿道の街並み（外堀通り）

緑やオープンスペースの連続


寺社の隣接する閑静な住宅街（愛宕山周辺）

界わい性のある街並み

路地空間のヒューマンスケールな街並みが、にぎわいに満ちたまちを生み出します

新橋仲通りの街並み

新橋駅周辺の路地空間

まちづくりのポイント② 通りの歴史や魅力をいかした歩行者ネットワークの構築

- 拠点をつなぐ結節軸である新虎通りは、本地区のシンボルストリートにふさわしい風格とにぎわいのある魅力的な通りとなるよう、道路と沿道が一体となったにぎわいや緑が豊かな街並みを持続的に発展させていきます。
- 本地区には、江戸時代から存在する、地域の人びとにとって馴染みの深い歴史的なゆかりのある通りが複数存在します。通りのもつ歴史や個性を承継し、更に発信していくことが大切です。
- 新橋駅などの主要駅周辺や地形の高低差が大きい虎ノ門･愛宕周辺では、回遊性を高めるため、地上･地下道･デッキレベルでの立体的な歩行者ネットワークを形成していきます。
- 一体的につながる緑豊かな歩行者ネットワークの整備により、利便性だけでなくにぎわいあふれる歩いて楽しい歩行空間の形成を目指します。

江戸後期(文久2年(1862 年))頃のまち
(出典:「増補港区近代沿革図集(港郷土歴史館所蔵)」)

■赤レンガ通り(愛宕大名小路、広小路通)
江戸時代には将軍や大名が増上寺に参詣する際の動線。明治には通り名の由来となったレンガ造りの建築物が建てられ、明治末には芝家具をつくる家具屋が軒を連ねた。現在も歩道は赤レンガ色で舗装され、特徴のある街路灯や案内板が設置されている。

■愛宕下通り
古くからの景勝地である愛宕神社や青松寺などの寺社、虎ノ門大坂屋砂場といった資源が点在し、歴史を感じる景観や愛宕山を中心に、本地区外の緑の拠点をつなぐ緑の軸として、心地よい歩行空間が形成されている。

■烏森通り(藪小路、佐久間小路、稲荷小路)
藪小路、豊後佐伯藩上屋敷をはじめとする武家屋敷が並ぶ佐久間小路、烏森稲荷神社につながる稲荷小路からなる、歴史的なゆかりのある通り。
現在では、沿道に新橋から虎ノ門にかけて商業施設が多く立地し、新虎通りと並行する形でにぎわいが形成されている。

3 目指すべき都市構造

広域的な視点から見た本地区の位置付けを踏まえて、本地区の活動と回遊の骨格となる拠点及び軸を設定し、目指すべきまちの構造を示します。

広域

「都市づくりのグランドデザイン」における新たな地域区分（港区の位置付け）

【中枢広域拠点域】

国際的なビジネス・交流機能や業務・商業などの複合機能を有する中核的な拠点が形成され、グローバルな交流によって新たな価値を生み続けている。

【国際ビジネス交流ゾーン】

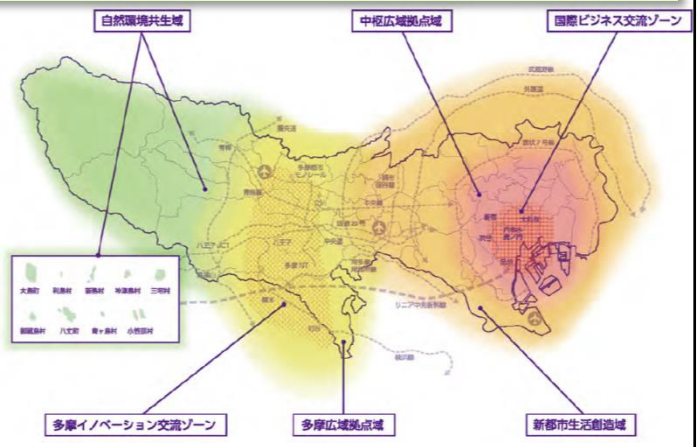
特に国際金融やライフサイエンスといった世界中から人材、資本、情報が集まるグローバルビジネスの業務統括拠点やアジアのヘッドクォーターなど、国際的な中枢業務機能が高度に集積した中核的な拠点が複数形成され、アジアにおけるビジネス・交流の拠点としての地位を確立。

○赤坂・六本木・虎ノ門

国際色豊かな業務、商業・エンターテイメント、文化、宿泊、居住、教育などの多様な機能が、連担する開発により高度に集積／外国人にとっても暮らしやすく交流の生まれる複合拠点／エリアマネジメントによる地域の魅力向上、歩行者空間のネットワーク化などにより、回遊性が高く活発な交流の生まれる地域が形成

○新橋・汐留

開発事業等が進み、業務・商業・居住機能などが高度に集積し、起業家やスタートアップ、ベンチャー企業などが集まりイノベーションが生まれ続けるビジネス交流の拠点／駅の改良や駅周辺の整備による交通結節機能の強化



4つの地域区分と2つのゾーン

中域

「港区まちづくりマスタープラン」における将来都市構造

【都市機能が集積する拠点】

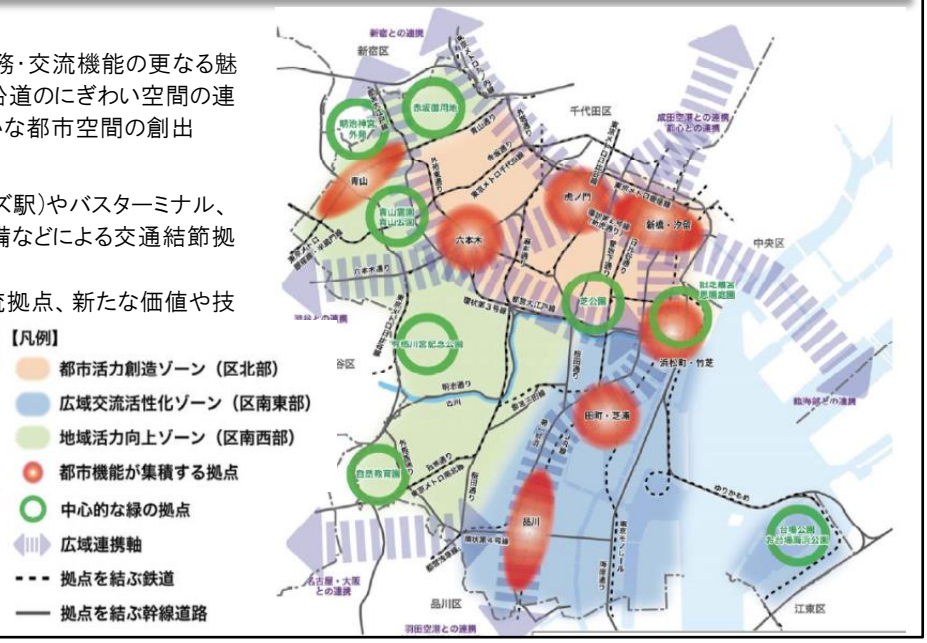
交通結節拠点としての利便性の高さをいかして、多様な都市機能の集積を促進
拠点相互の関係性に留意しつつ、適正な機能分担を図りながら、地域の特色をいかしたまちづくりを推進

○新橋・汐留

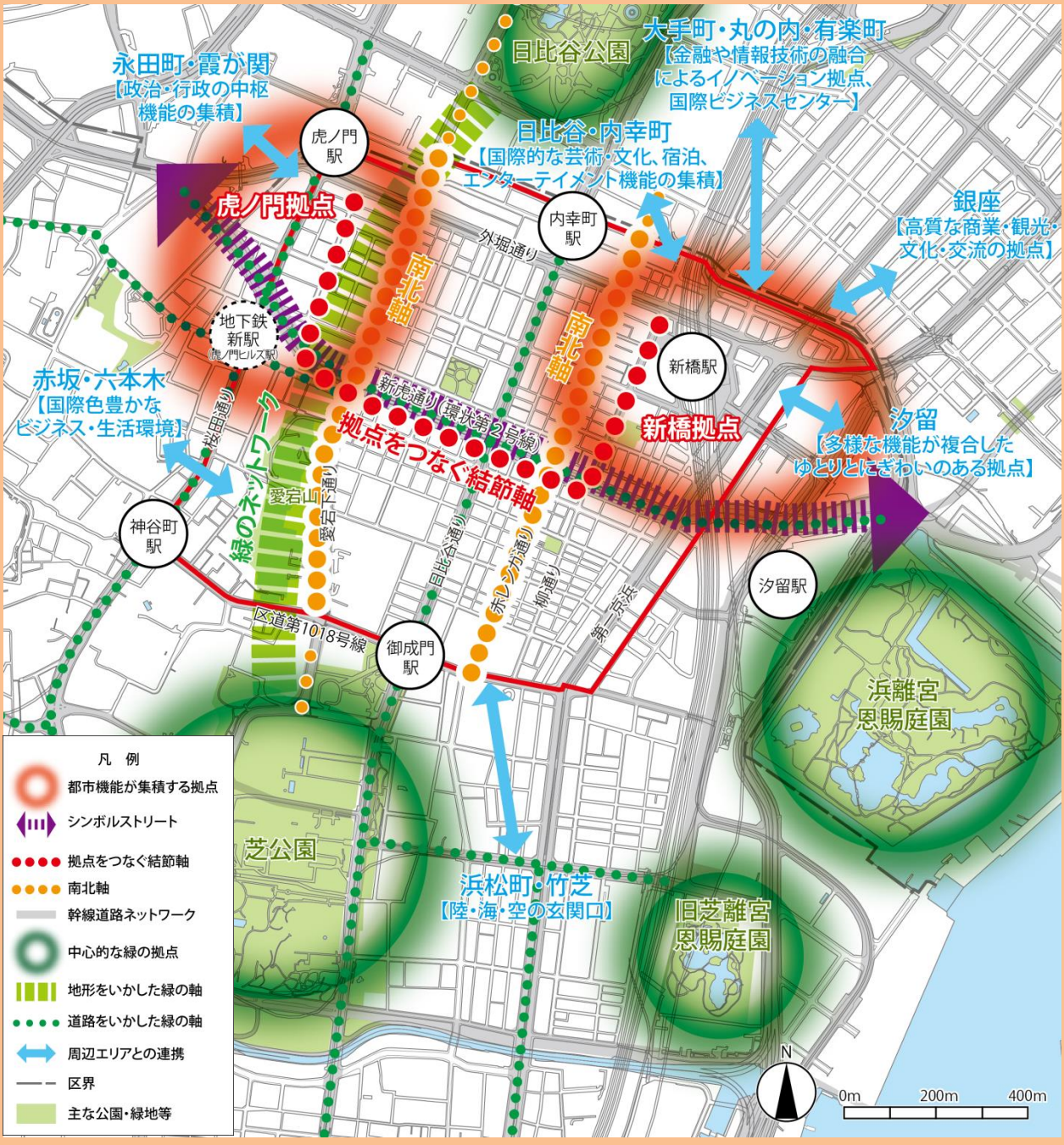
駅を中心とした商業・業務・交流機能の更なる魅力向上、環状第2号線沿道のにぎわい空間の連続化と厚みのある緑豊かな都市空間の創出

○虎ノ門

地下鉄新駅（虎ノ門ヒルズ駅）やバスターミナル、歩行者ネットワークの整備などによる交通結節拠点の形成
国際水準のビジネス交流拠点、新たな価値や技術の創造・発信拠点



将来都市構造

新橋･虎ノ門地区が目指すまちの構造

- 新橋･虎ノ門地区においては、まちの中心となる「都市機能が集積する拠点」（新橋、虎ノ門）と、2つの拠点をつなぐ結節軸（新虎通り等）により、まちの骨格を形成する。
- 拠点及び結節軸を基点としながら、各エリアの魅力や資源をいかし、多様な機能の誘導や回遊性の向上を更に推進するため、歩行者ネットワークの中心となる「南北軸」を設定し、人びとの活動や回遊を活性化し、にぎわいを創出する。
- 歴史的な地形を残している貴重な愛宕山の緑を保全し、芝公園や日比谷公園など周辺とつながる緑のネットワークを形成する。
- 本地区外縁部では、周辺地域が持つ特色と相互に連携し合い、連続性に配慮した街並み形成やネットワークなどの構築を進めるとともに、特色ある個性をいかして本地区全体の活力と魅力を引き出していく。